

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

大正五年九月一日發行

第三號

第三卷

論說

聯合國經濟同盟^{ニ對スル}我國ノ態度

國防稅ノ當否(一)

でうゐつぎ・ひゆーむノ經濟學說(五)

『座』ノ研究(二)

兌換券ト物價ト輸出入ノ關係^{ヲ論ズ}

資本ノ眞概念ノ發展(三)(完)

雜錄

小野塚牧野兩博士ノ新著

不換紙幣流通ノ根據^{ニ就テ}福田^{博士ニ答フ}

びゆつひあーノ經濟^達發^達階段^{ニ非ズ}說^{ハ其獨創}

最低賃金ノ制度ニ就キテ

日英ノ物價

手ノ器用ト其脩養

『通俗經濟文庫』卷一ヲ讀ミテ

『瀧本誠一^{氏ノ草茅}危言摘義^{ニ就テ}』補遺

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戸 正雄

法學博士 福田 德三

文學博士 三浦 周行

法學博士 小川 郷太郎

法學博士 河上 肇

法學博士 福田 德三

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戸 正雄

法學博士 山本美越乃

法學士 河田 嗣郎

法學士 財部 靜治

法學博士 河上 肇

法學博士 鈴木 券太郎

(載 轉 禁)

雜誌

小野塚、牧野兩博士ノ新著

福田 德三

小野塚博士ノ『歐洲現代政治及學說論集』ト牧野博士ノ刑事學叢書第一編『刑法ト社會思潮』ノ二書共ニ近頃惠贈ノ光榮ヲ得テ夏日筆硯ニ懶キ予輩ハ爲メニ數日ノ清涼ナル「れくちゆる」ヲ見出シタ。

小野塚博士ノ述作ニ於ケル忽モセズ國家學會雜誌法學協會雜誌ノ二者ノミガ博士ノ文ヲ載スル壇場デアツテ而シテ其公ケニセラルル論文モ一時的ノモノハ殆ンドナク常ニ系統的ニ又々連續的ニ研究ノ結果ヲ展開シ行クモノデアアル。研究ト云フ字ハ我邦デハ餘程輕イ意味ニ取扱レテ居ツテ時ニハ單ニ讀書スル位ノ意味ニ用ラルルコトアリ教科書ヲ製作シテモ研究ノ發表ナリト云ハルル事モアリ甚シキニ至ツテハ横文ヲ豎ニ「とらんすくらいぶ」シタ丈ケデモ又ハ邦文

ノ他ノ著作カラノ「じたきすたぼじしよん」デモ研究ノ結果ナリト稱セラルルコトスラアル。獨逸學者ノ所謂「ふおるしゆんぐ」トハ餘程用法ガ異ル様ニ見受ケラルル。今小野塚博士ノ著作ニ就テ吾輩ガ用ユル研究ナル文字ノ意味ハ這般ノ通例ニ從フモノデナク「ふおるしゆんぐ」ノ邦語トシテデアル。此意味ニテノ研究ハ彼ノ通用ノ意味ニ於ケル研究ノ甚ダ多キト反比例ニ甚ダ少ナイコトハ改メテ申スマデモナイ處ト思フ。故ニ予輩ハ常ニ博士ノ論文ハ之ヲ通讀スルコトヲ一ノ愉快ナル行事トシテ居ル。博士ハ『政治學大綱』二冊ヲ以テ政治學ノ全體ニ關スル其研究ヲ集大成シテ世ニ問ヒタル外ハ常ニ雜誌論文ヲ系統的ニ編纂シテ論文集トスルヲ例トスルガ如ク『現代歐洲ノ憲政』『歐洲現代立憲政治一班』ノ如キ何レモ然ルモノデアアル。今予輩ノ案頭ニ在ル新著ハ此二者ノ續篇トモ見ル可キモノデ三者元ヨリ別著タルニハ相違アイガ或意味ニテハ將來大成セラル可キ政治學大成ノ一二三卷ト見テモ不可ナキモノト思フ。而シテ此等一切ヲ通

ジテ博士ノ執ル所ノ研究ノ態度ハ終始一貫シテ居ル。博士ハ其新著ニ序シテ『政治ニ對スル予ノ根本思想ハ依然トシテ外形的發展主義ヨリハ寧ロ内容充實主義ニ傾キ臨機應變ノ二國務遂行上一時ノ效果ヲ奏スル者ヲ尊ブコリハ寧真正ナル憲政思想ノ漸進的發展ヲ期スル者ニ與ス、而シテ憲政ノ發達ニ關シテハ民意ト民福トヲ重ンズル所ノ識者ト此種ノ識者ニ信頼スル所ノ衆民トノ協力ニ待ツノ外ナキヲ信ズ』ト告白シテ居ラルル。換言スレバ博士ハ所謂世界政策所謂帝國主義ノ學徒ニアラズシテ民主的(近來民本的ナル語散見シ民本ト民主トハ別物ナリトノ説ヲ聞ケドモ予ハ之ヲ以テ一ノScheme begittト考フ鬼面人ヲ驚カス反對ニ佛面人ヲ懷ケ様トノ深ハ十分ニ認メルガ面ハ矢張り面デ實體デハナイト信ズル)ナリ而シテ社會政策ニ重キヲ置ク所ノ憲法政治本位ノ學說ヲ取ラルルモノデアル。從テ舊著ニ於テモ新著ニ於テモ博士ガ廣汎ナル政治上ノ現象事實中ヨリ撰拔シテ其研究ノ題目トセラレタルモノハ此ノ根本見地ニ合スルモノノミデアル。即チ新著ニ於テハ『英國ニ於ケル婦人參政權問題』『英國ニ於ケル聯立内閣ノ政治的視察』『獨逸社會黨ノ穩(温?)和的

傾向』『以國ニ於ケル普通選舉施行願末』『英國ニ於ケル帝國主義トシテ一ノ學說』『佛國ニ於ケル比例選舉學說ノ一斑』『ブーとミート其政治學說』『現代獨逸ノ軍國主義トとらいちけノ學說』ノ八項ヲ取扱ツテ居ラレル。予ハ政治學ニ於テ全クノ門外漢デアルカラ此等諸章ノ内容ニ立入ツテ彼是見解ヲ述ブル能力ヲ有シナイ、從テ本書ニ對シテ學問上批評ヲ試ミル積ハ寸毫モ持タナイ。唯ダ一般讀者トシテ一讀過後ノ印象ヲ略言シテ見ユウト思フノデアル。

先ツ全體ニ就テノ印象ヲ云フト同ジ政治問題ノ研究者トシテ見ルニ小野塚博士ト吉野博士トノ間ニ著シキ相違ヲ認メザルヲ得ヌ。吉野博士近來ノ快著タル『歐洲動亂史論』ニ於テ吾々ハ行ク所トシテ可ナラザルナキ才筆ニ醉ハサレタガ小野塚博士ノ著作ハ一トシテ吾々ヲ醉ハシメル力ヲ持タヌ。吉野博士ハ縱橫無盡ニ論辯シ記述シ行キテ往々ニシテ吾々讀者ニ『考フルコトノ許可』ヲ與ヘナイ。考ヘント欲シテモ爾スルコトノ不可能ナルヲ感ズル。之ニ反シテ小野塚博

士ノハ第一行カラ最終行マデ常ニ考ヘロ考ヘロト吾々ニ催促シテ居ル様ナ氣ガスル。其原因ノ一ハ博士ノ行文モ「ぢすぽじちよん」モ共ニ聊カ schwerfällig (schwer verständlich デハナイ)ナル爲メデアアルカト思フ。從テ讀者ハ始終多少考ヘル態度ヲ以テ掛ラナイト時ニハ空讀ヲスルコトガアル。其代リ少シツツ考ヘテ讀ミ行クトキニハ博士ハ其章節毎ニ一定ノ問題ナリ事實ナリノ取扱ヲ約束シタ以上必ズ材料ノ許ス限り又タ必要ノ要求スル限り其約束ヲ實現セラルルヲ見出スノデアアル。此點ニ於テ博士ノ研究文ハ formvollendetナル語ヲ以テ最モ克ク言表ハシ得ル。他ノ言ヲ以テスレバ博士ノ着題ト内容トハ必ズ一致シテ居ルシ實現セラレザル Vorwurfヲ置クトナシ、予ハ此點ニ於テモ他ノ點ニ於ケルガ如ク常ニ博士ヲ學バント欲シテ能ハザルヲ嘆ズルモノデアアル。予ノ知ル所ニテハ内田博士ハ此點ニ於テ予輩トハ同日ノ談デハナイガ小野塚博士トハ大分趣ヲ異ニセラルル如クデアアル。例ヘバ『日本近世史』ノ如キ序文大小二種又タ印刷卒ル

際ノ斷言ヲサヘ而モ海上カラ添ヘテ大ナル Vorwurfヲ置カレタガ今日マデニ實現セラレタモノハ其ノ何十否何百分ノ一ニシカ至ラヌ強テ云ヘバ「豫告倒レ」ぶるぐらむ倒レ」ニ終ツテ居ル。又タ博士ノ特ニ別刷ヲ惠送セラレタ諸文例ヘバ『佛教ノ經濟思想』ノ如キモ着題ト内容トハ一致セヌ。『史學ト哲學』トノ如キモ着題ノ大サト内容ノ大サトハ一致シテ居ラス。小野塚博士ハ之レト異リ其爲シ能フ丈ケヲ始メヨリ正確ニ算出シ置キ而シテ爲ス可シト言ハレタルコトハ博士ノ力ノ許ス限り必ズ爲スヲ常トスル。是レ學者大分ヨリ來ル自然ノ相違ニシテ西洋學者ニモ常ニ見ル所デ其間優劣ノ區別ハ下シ得ナイコトト思フ。經濟學者デ云ヘバのいまん先生ノ如キ其著シキモノデアロウ、びゆひあー先生モヤヤ然ルガ如ク、まーしあるニ至ツテハ其餘程然ルモノデアロウ。序文ニ斷リ書ノ入ル様ナ書ハ公ケニセザルニ若カズトノ其ノ斷リ書ヲ管管ト序文ニ書クぐろつせ君モ亦然リ。寧ロ此種ノ學者ノ例ノ方ガ多イ、小野塚型ノ學者ハ却テ

少數デアル。尤モ一氣呵成ニ數十ノ書ヲ連發スル人々ハ問題外デアル。

サテ少シク一々ニ就テノ感想ヲ記述シテ見ヨウナラバ、此書ノ題目ハ英國ノ政治ニ關スルモノ三、佛國ニ關スルモノ二、伊國ニ關スルモノ一獨逸ニ關スルモノ二デアツテ、現代歐洲政治ノ大問題ヲ巧ミニ捉ヘテアルガ、予輩ガ些デハアルガ豫備智識ヲ有シテ居ルモノハ婦人參政問題、獨逸社會黨、英國帝國主義、獨逸ノ軍國主義等ニ過ギヌ他ハ皆著者ノ文ニヨリテ初メテ學ブ所ノ事柄デアル。

先ヅ獨逸社會黨論ニ就テ一言ヲ許サルナラバ第一ニ何故博士ガ社會衆民黨トシテ社會民主黨トセヌカ十分ニ諒解シ兼ヌル。博士ハ嘗テ其理由ヲ辨ゼラレタコトガアツタ様ニ記憶スルガ Demokrat ハ民主ト譯スルノガ一番妥當デ且ツ我邦ニ於テ普通デアルト信ズル予輩ハ博士ノ説明ニ承服シ兼ヌル。何ノ道衆民黨ハ Volkspartei ノ譯語トシテハ尤モ千萬デハアルガ Demokratische Partei ノ衆民黨トスルノハ譯者ノ私譯

トシカ認メラレス。私譯ト茲ニ云フハ私意ノ含マレテ居ル譯ト云フコトデアル。民主ト云フ字ハ危險デモ何ンデモナイヨシ又危險デアツタトテ彼等自ラ其名ヲ附スル以上他カラ之ヲ緩和譯シテヤル必要ハナイト思フ。サテ博士立論ノ大體ハ予輩ニ於テ全然同感ヲ禁ジ得ザルモノデアル殊ニ『獨逸社會黨ヲ以テ全然非愛國的ナル危險團體トナスハ四百餘萬ノ獨逸人民ヲ以テ危險分子ト爲ス者ナリ、此ノ如キ多數人民ガ繼續的ニ系統的ニ過激ナルハ容易ニ想像シ得可ラズ、況ンヤ彼等ハ現存國家ニ於テ若々其運命ヲ改良シ得ルノ事實ヲ知ルニ於テチヤ』(二五一頁)テフ結論ハ此次ノ大戰爭ニ際スル獨逸社會民主黨ノ實際ニヨリテ極メテ的確ニ裏書セラレタリ。博士ハ今日ニ於テハ確カニ先見ノ明ヲ誇リ得可キノデアアル。『現代獨逸ノ軍國主義トとらいちゆけの學說』ハ歐洲大戰爭始マツテ後公ケニセラレタモノデ社會黨論ニ對スル一ノ Gegenstück ト看做スヲ得可キノデアアル。而シテ予ガ博士ニ問ヒタキハ獨逸ノ軍國主義トハ如何ナルコトヲ指シテ云フカ是レデア。博士ハ『軍國主義ハ武力主義ナリ、國家萬能主義ナリ内政上ニ於テハ人民ヲ輕シ兵士ヲ重シ尚武的性質ヲ以テ社會

ノ共同生存ニ必要ナル最大ノ美德トシ自由民權個人人格ノ發展ヲ以テ稍モスレバ國家ニ危險ナルモノト爲シ軍隊ヲ以テ往々政策ヲ忠僕ト爲スチ肯シセズシテ却テ政治上ノ主人公タラシメント欲スル者ナリ。對外關係ニ於テハ徹頭徹尾自國本位ニシテ自國ノ利益ノ爲メニ國際上ノ法規ト社交の習慣トヲ犧牲ト爲ザナ辭セズ、戰爭ヲ以テ止ムヲ得ザル時後ノ手段ト爲ズシテ國際紛議解決ノ最良法ト認ムルモノナリ』(三六六―七頁)ト言ツテ居ラレル。軍國主義ニ對內的、對外的ノ兩方面アルヲ明カニセラレタルハ誠ニ用意周到デアル今聯合國ガ必ズ撲滅セザレバ已マズト云フハ主トシテ其對外的方面ヲ云フノデアロウ、何トナレバ對內的ニ一國ガ如何ナル主義ヲ取リタリトテソレハ他國ガ干涉ス可キ事柄デハナイ。ソナコトヲ云フナラバ聯合國ノ中デモ征伐ヲ必要トスル事ハ隨分アロウ、内政一般ノ上カラ云ツテ至急改良ヲ要スルコト切ナルハ獨逸デハナクシテ却テ聯合國ノ一タリ今ヤ吾邦ノ同盟國(一)トナリタル露國デアツチ自由民權個人人格ノ發展ヲ壓抑シタリ人民ヲ輕シタリスルコトハ露國ノ方ガ獨逸ヨリモ遙カニ上手デアル否ナ武士道ヲ以テ國民道德ノ神髓ナリ等ト稱スル識者山

ノ如キ我日本ハ博士ノ對內的軍國主義ノ好典型デハアルマイカ『人民ヲ輕シ兵士(軍人)ノ重シ尙武的性質ヲ以テ社會ノ共同生存ニ必要ナル最大ノ美德ト爲シ自由民權個人人格ノ發展等ヲ以テ動モスレバ國家ニ危險ナルモノト爲シ軍隊ヲ以テ却テ政治ノ主人公タラシメント欲スル者』ハ我邦ニハ無數ニアルノデハナイカ、特ニ獨逸ノ特有タル點ハ些モ發見スルコトガ出來ナイ、此種ノ軍國主義ヲ退治スル爲メニ我聯合國ガ戰フノナラ獨逸ノ次ニ露國其次ニ日本ヲ退治スルコトトナリ果テハ世界中殆ンド凡テノ國ヲ征伐スルコトガ必要トナルデアロウ。又タ此意味ノ軍國主義ノ主張者鼓吹者ハべるんは―デ―ヤとらいちゆけノミデハナイ、各國共ニ同種ノ論者少カラズアルコトデアル。『現代獨逸思潮ノミニ冠セラルル特稱』トシテ是ナリヤ否ヤ予ハ之ヲ疑ハザルヲ得ナイモノデアル。故ニ獨逸ノ軍國主義トハ主トシテ其對外的方面ヲ指スモノト見ル可キガ如シ。博士曰ク『且ツ夫レ新興獨逸ノ發展ヲ策センニハ武力ヲ中心ト爲シ必要ニ應

ジテ得礙ヲ打破シテ國際場裡ニ勇行邁進スベシトノ現代の色彩^ハ是ヲ他國ノ現狀ニ比シ更ニ獨逸ノ過去ニ照セバ鮮明ニ吾人ノ眼ニ映ズルモノアルヲ覺ユ、今假一之ヲ軍國主義ト名クルモ可ナランカ、況ヤ此名稱ハ英米ニ於テ獨逸現代ノ特徵トシテ目下普通ニ使用セラルルニ於テヤ^{三六七頁}ト此一節ハ前ノ三六六頁ノ定義トハ少シク矛盾シ單ニ其對外的方面ノミニ就テ命名セラレタル所以ハ必竟軍國主義トシテ對外的態度ニ就テ云フモノナルガ爲メデアツテ博士ノ矛盾ハ正サニ許サレタル矛盾デアルト思フ。サテ此意味ノ即チ再ビ博士ノ言ヲ藉レバ『徹頭徹尾自國本位ニシテ自國ノ利益ノ爲メニ國際上ノ法規ト社交の慣習トヲ犧牲ト爲スヲ辭セズ戰爭ヲ以テ止ムヲ得ザル最後ノ手段ト爲サズシテ國際紛議解決ノ最良法ト認ムル』モノハ決シテ現代ノ獨逸思潮ニノミ特有ナルニアラズ他ノ時代他ノ國ニモ屢々之ヲ見タ所デ殊ニ英國(主トシテ十六、十七世紀ノ)ヤ和蘭又ハ西班牙、佛蘭西等ニモ存在シタ所ナルコトハ歴史ノ示メス所デアツテ我

邦デモ佐藤信淵ノ混同秘策ノ如キ又タ本庄學士ガ屢々偉ナル學者トシテ推稱セラルル本多利明ノ如キ其他ニモ往々見ル所デアル。何ノ道コレハ獨逸現代ノ特徵デモ又ハ現代の色彩デモナイ様ニ考ヘラルル。英米ニ於テ目下盛ンニ使用セラルルト云フコトハ必ズシモ學問上ノ正確性ノ標準トハナラナイ。普通ノ新聞用語ナレバ其レデ差支ハアルマイガ學者ガ學問上ノ一定義ヲ下シ殊ニとらいちゆけナル一學者ノ學說ヲ學問上評論スル標準トスルニハ博士ノ定義ハ精密的確トハ言ヒ難イカト考ヘラルル。況ンヤ博士ハわぐな一、しゆもら一等ノ經濟學者ヲモ其中ニ包含セラルルニ於テヲヤ。而シテ此ノ軍國主義ナルモノトとらいちゆけトノ關係ニ就テハ博士ハ『更ニ思フニ彼(とらいちゆけ)ノ學說ハ單純ナル軍國主義ニハアラスシテ深甚ナル理想的道徳の分子ヲ混入セリ』^{四三頁}ト云ツテ居ラレル。『獨逸近世ニ於ケル軍國主義學者ノ最モ顯著ナル』^{四二頁}ト彼とらいちゆけハ然リ而シテ『彼ノ以前同時及以後ニ於テ大體ニ於テ同一傾向ト看做ス

ベキ幾多ノ大小學者ト諸派ノ學說西二存シ『殊
ニ今回ノ開戰以後ニ於テハ獨逸知名ノ學者ニシ
テ極端ニ自國本位の軍國主義ノ辯護ヲザルモ
ノ甚少ク此獨逸現代ノ思想ヲ一ニとらいつけ
ノ影響ニ歸スベカラズ』同上サレバ吾人ハ軍國主
義ナルモノニ就テ學問上正確ナル定義ト解剖ト
ヲ博士ヨリ期待スルノ情甚ダ切ナラザルヲ得
ヌ。博士ノ與ヘラレタルモノ丈ケニテハ予ハ甚
ダ不足ト思惟スルモノデアル。

次ニ英國ノ婦人參政權問題ニ就テハ予ハ極メ
テ僅カシカ知ラヌガ博士ハ『改正前ニ於ケル女
權論者バ誠ニ寥々トシテ晨星ノ如クおるすど
ーんくらふと、たむそん等ノ著書ハ所謂荒野ニ
於ケル叫聲ニ過ギザリキ』六ト斷定シテ居ラル
ルガ數ノ少ナイコトト影響ノ小ナルコトハ必ズ
ズシモ「しのにます」デハナイ。予ハ Mary
Wollstonecraft, Vindication of the Rights of Women
; W. Thompson, An Appeal of one half of the
human race, Women, against the pretensions of
the other half, men * (1825) ノ二書ハ數回通讀

シタルモノナルガ何故ニ此等ガ荒野ニ於ケル叫
聲ニ過ギザルカラ諒解シ能ハヌモノデアル。此
兩書殊ニたむそんノ書ハ流布ノ本余リ多カラザ
ルモノデアレバ**博士ハ親シク其ニ就テ讀マ
レタルコトヲ今少シ詳カニ論評セラル可カリシ
ト思フ。たむそんヤうおるすどーんくらふとノ
婦人權論ガ荒野ノ叫ナラバ同ジたむそんノ分配
論殊ニ其中ノ餘剩價值論ヤでどうゐんノ財產論
人口論モ更ラニヨリ以上ニ荒野ノ叫聲ニ過ギザ
ルモノト言ハチバナラヌコトトナル。予ハ之ニ
對シ、異議ノ申立ヲ爲サント欲スルモノデアル
うおるすどーんくらふとたむそんトヲ度外ニ
置キテ婦人問題婦人權問題ヲ論ズルノハたむそ
んヤでどうゐんヲ度外ニ置キテ社會主義ヲ論ズ
ルト同ジキ不備ノモノデアアルマイカ。博士ハ
主トシテ現時ノ問題現時ノ學說ニ重キヲ置カル
ルモノノ如ク其著書ニモ常ニ『現代』ヲ冠ラセア
ルガ Dogmengeschichte ナシノ現代研究ハ學問十
分トハ決シテ云ヘナイト思フ。他ノ事ハサテ置
キ英國婦人權問題ニ就テ博士ノ取ララル Idee-

* 博士ノ學ケラレタ書題ハ違フ。
** 京都帝國大學法科圖書ヲ知
ハ所藏アリヤ否ヤ知

geschichte 度外ノ態度ハ予ハ嫌ラナク思フモノ
デアル。同様ノ感想ヲ博士ノ英國帝國主義論ニ
就テモ惹起シタ、博士ハ其第二節ニ抑壓期、冷淡
期、統一期ノ三期ニ分ツテ若干ノ叙述ヲシテ居
ラルルガ全體ヲ通ジテ斷片的デアツテ帝國主義
思想史トシテハ殊ニ學說史トシテハ何等ノ新研
究ヲモ示メシテ居ラナイ。

終リニ誤植又ハ發音等ニ疑アルモノ若干アル
コトヲ申シタイ。えあふると、まゝくす等ハ人
ノ嗜好問題ダガ獨逸語ヲ邦字ニ移スニバえるふ
ると九九頁 其他まるくす一四 頁其他ノ方ガ眞ニ近ク
ハナイカ、べんさむハべんたむトシタ方ガ
英人ノ實際ノ發音ニ近クハナイカ。(牧野博士ハ
ペンタムトシテ居ラレル。)字引ニハ than lam
兩様ノ發音ヲアゲテハアルガ多數ノ英人ハタム
ト發音シテ居ル以上吾々ハ之ニ從フ可キカと思
フ。此事ハ穂積老博士ニモ嘗テ卑見ヲ申上ゲタ
ムトガアルガ、何レデモ大シタ差支ハナイダロ
ウガ博士ノ様ニ精密ヲ生命トセラレル學者ニ對
シテハ此事ヲ申上ゲテ宜シイト考ヘル。(べる

んす(しゅ)たいん、す(しゅ)たつとはーげん
一〇〇頁及一等ハ何レニテモ宜シカラン)一二三四頁
三〇頁其他
ノ Die Arbeiterparlament ハ如何ナモノニヤ、一
四六頁 Münchener neu-sten Nachrichten ハ明カ
ニ誤デアル。一六二頁からぶりー(あ)ハ可笑
シイ。一六九頁 p. XXI. ハ普通ノ用例ニ反シ
テ居ル同様ノコトハ屢々繰返サレテ居ル、(一七
〇頁一七二頁、一七四頁、一七五頁其他大分ア
ル)。西洋ノ學者ハ羅馬字ノトキハ p. m. s. 等附
クアイ様デアル。一八三頁佛國ノ『では』新聞
ヲ O.k. 25. ハ獨逸カブレヲ示シテ居ル無論
デナケレバナラス。コレハ誤植デハアルマイ『ら
ぶすすからみ』デアアウ。但シ此等ハ強テ「ア
ラ」ヲ探シテ漸ク見出し得タモノデ外ノ書物殊
ニ予輩自ラノ書等ニハ更ラニ數十倍スルモノノ
アルコトハ勿論デアル。

之ヲ要スルニ小野塚博士ノ新著ハ趣味ノ甚ダ
深い極メテ精密慎重ナ研究文ノミヲ以テ成ルモ
ノデアル。予ハ暑キ七月ノ何日カラ此書ニ親ム
コトニヨツテ愉快ニ暮ラシ得タコトヲ心カラ博

士ニ感謝スルノデアル。

× × × ×

牧野博士ノ新著ヲ一讀シテ予ハ轉ロニ河上博士ノ『祖國ヲ顧ミテ』ヲ聯想セザルヲ得ナカシタ両書ノ取扱フ所其態度ハ全ク別箇デハアルガ共ニ學界稀有ノ能文家ガ留學中ノ見聞ヲ趣味深キ通信文ノ體ヲ以テ母國ノ故舊ニ報セラレタモノデアル。河上博士ノハ河津博士ガ既ニ論評ヲ公ケニセラレタカラ別ニ蛇足ヲ附スルヲ要セヌガ、一言ニシテ云ヘバ直觀的ノ一產物デアツテ之ヲ表ハスニ博士獨得ノ美文ヲ以テシタモノデアル。河津博士ハ此書ヲ獨斷的ノ論斷少カラズト云ハレタガ成程左様云フ點モ認メラレルガ要スルニ博士ハ大ナル問題ヲ成ル可ク小ニ取扱ハントセラレタモノト思フ。故ニ構論ガ著シク『名りぶちかる』デ且ツ日刊新聞ニ載セルト云フ心地ヲ始終持ツテ書カレタ爲メ著シク Journalisticニナツテ居ル。牧野博士ノハ之ニ比レバ遙カニ多ク學究的(留學生的ト云フ造語ヲ許サルナラバ其レ)デアル。而シテ此書ニヨリテ我々刑法

ノ門外漢モ些ノ困難ヲ覺エズ刑法學ノ最近ノ傾向ノ一端ヲ窺ヒ知ルヲ得タルハ甚ダ感謝ス可キ所デアル。予輩ハ邦文デモ洋文デモ刑法ノ書物ハ一冊モ見タコトノナイモノデ實ハ此書ニ「刑法」トアル丈ケデ既ニトテモ讀メル種類ノモノデハナイト諦メテ居タ次第デアルガ、惠送ヲ忝フシタ書物ハ出來ル丈ケ目ヲ通セル丈ケハ通スト云フ年來ノ慣習ノ爲メニ二三頁ヲ通覽シタガ其儘全篇ヲ讀ミ終ルマデ卷ヲ置クコトガ出來ナカツタ、實ニ此書ハ刑法ニ關係アル書物ニシテ予ノ讀ミタル唯一ノモデアル。而シテ刑法ノ研究ニモ猶此ノ如キ趣味深キ問題ガ多クアルコトヲ知ツテ實ニ驚キ愕イタノデアル。刑法此クノ如クンバ予ハ年來ノ喰ハズ嫌ヒノ甚ダ愚ナリシコトヲ深く悔ヒザルヲ得ヌ。而シテ單ニ趣味ノ問題デナイ我々經濟學ノ學生ニモ専門上他山ノ石トシテ參考ス可キコトガ多クアルヲ覺エタノデアル。予ハ此書ガ刑法云云トアルニヨリテ經濟學ノ同學諸君ニ讀マレザルコトアラバ甚ダ殘念ナリト思ヒ茲ニ聊カ一言シテ見ルコトニシタ

ノデアアル。

此書ハ多ク法學協會雜誌ヘ其時々寄稿セラレタ通信文ヲ集大成シタモノデ第一羅馬、第二どりの、第三伯林、第四巴里、第五倫敦ノ五編カラ成立ツテ居ル。此中予輩刑法門外漢ニ最モ面白ク讀マレタルハ「伯林ヨリ」及「倫敦ヨリ」ノ二篇デアアルガ伊太利通信モ巴里通信モ甲乙ナキ趣味深キモノデアアル。予輩ハ今ヨリ二十年ノ昔岡田博士ト共ニ渡歐途上博士ヨリべるなノ名トリすとノ名トハ之ヲ聞キりすとガ新傾向ヲ代表スル學者デ岡田博士ハ此ノりすとヲ目當テニ入獨セラルルコトヲモ知リ業府在學ノ頃はれニ遊ビりすとノ講堂ヲ一度見物シタコトガアツタ。然シ其新派ナルモノノ意義等ニ至テハ皆目知ル所ナカツタ。みゆんへん在學ノ頃びるくまいあ先生ノ噂ハ度々伺ツタガツヒニ一時間モ其講義ヲ伺ツタコトナクシテ過ギタ。今牧野博士ノ新著ヲ讀ミテ刑法ノ舊派ト新派トノ異同ヲモ粗ボ知ルコトヲ得殊ニ伊太利學者ノ貢獻大ナルヲ學ブヲ得タハ甚ダ會心ナコトデアツタ。伊太利學者

ノ中デハぐりすびに氏ノ説ハ甚ダ趣ガ深イト思フ。博士曰ク『氏ハ第一ニ犯罪人ハ成年者タルト幼年者タルト精神ノ通常者ト否トノ論ナク總テ犯罪人デアアルト主張シ社會ニ於テ是等ノ者ニ對スル防衛方法ヲ講ゼナケレバナラス。イフコトカラ見レバ其ノ間ニ差異ガナイトシ畢竟所謂責任能力トイフコトハ犯人ノ區別從テ其處遇ノ區別ノ標準タルニ過ギナイト論斷致シ居ラレ候、即チ將來ノ刑法論ハ犯人分類ニ其ノ基礎トセネバアラヌトイフコトニ歸着スルコトニ有之責任能力デナクテ刑罰能力即チ刑罰適應性デアアルトイフ點ニ於テ小生ト全ク同意見ニ有之候』(一二、一三頁)『小生等ノ立場ヨリ謂ヘバ此ノ學說ハ新理論ノ現時ニ於ケル最高潮ニ有之』(一四頁)而シテ『要スルニ伊太利學派ノ研究ガ最初ノ人類學のヨリ更ニ社會學のニ擴ガリ今マサニ法律學のニ其ノ領域ヲ確メツアル所ガ當地學風ノ味フ可キ所ト考ヘ居リ候』(一六頁)是レ又タ我經濟學ニ就テモ或度マデハ云ヒ得ル所ニシテ學問進歩ノ潮流ノ走ル所彼是對照シテ吾人ヲ啓發スルモノ渺シトセズ。博士又曰ク『伊太利ニ於ケル刑法理論ノ爭ハ研究方法ノ爭トシテ爭ハレ居ル次第ニ有之獨佛ニ於ケル狀況ト多少趣チ異ニスル所ト存候獨逸ニ於テハ寧ロ純理論上若クハ實體上ノ問題トシテ爭ハレ佛國ニ於テハ新派ノ主張ガ果シテ個人ノ自由ヲ擔保スルノ力アリヤ否ヤトイフ方面カラ爭ハレテ居ルニ對シ……爭ノ本體ハ同一ノモノニ候ヘ共其ノ爭ノ模樣形式ニソレ々々特色ノアルコト一寸面白イコトト考ヘラレ

候(八頁)

第三「伯林ヨリ」ノ中デハ一元論ニ關スル部分ハ予輩讀ンデ之ヲ諒解スル事丈ケハ十分ニ出來タ。「もにすむ」ガ刑法學ニマデ影響ヲ及ボス有様ハ博士ノ記述ニヨツテ面白ク學ブコトガ出來タ。然シ「もにすむ」ニ對スル博士ノ見解ハ予ガ今抱キツツアル所ノ卑見トハ同一デナイ。博士曰ク『私ハ茲ニ一元論ノ哲學上ノ價值ヲ論ズルコトハ避ケ度ト考ヘ候ガ少クトモ一元論ノ着眼點ト研究方法トハ今後ノ科學ニ於テ——獨リ自然科學ノミナラズナホ社會的科學ニ於テ而シテ又更ニ目的科學ニ於テモ——極メテ重要ナルモノデアルトイフコト丈ケ主張シテ懸キ度ト考ヘ候私共ハ自然現象ト社會現象トチ性質ノ違ツタモノト考ヘルコトヲ得サル義ニ有之又從テ法則ト規範トノ差異ハ分量的ノモノデアルトイフコトヲ信ゼントスル者ニ有之候(中略)總テノ點ニ於テ極端ナル一元論者ト步調ヲ同ジカスルトイフ譯ニハ參リ難シト存候(トモ少クトモ予ニむら—モ引用シテ居ル通り「まてりありすむ」ハ哲學ノ第一階梯トらんげも申シ「一元論ハ科學ノ一基礎方則トシテ認メナケレバナラヌ」ト夙ニなさるぶノ書物ニモ見ユルハ最早勸カシ得サルコトト存ジ候。サレバ(中略)獨逸ニ於テハ純正哲學ノノ研究方法カ決シテ衰ヘハ致サズ(略)併シ乍ラ純正哲學ノ本場タル此ノ獨逸ニ一元論者ノ國際會議カ開カレタトイフコトハ私ニ採ツ

第三卷 (第三號 四三〇) 一二八

テハ餘程面白イコトト考ヘラルコトニ候」(六七—六九頁)本誌ノ讀者ニシテ幸ニ拙著改定經濟學講義第一卷ノ其部分ト對照セラレナバ予ガ博士ト必ズシモ悉ク一致シ得ザル所以ヲ解セラルルデアロウ今再ビ管々シク述ベヌ。

八九頁ヨリ九三頁ニ至ル記述ハ殊ニ我々ニ注意ヲ促カスモノデアアル。博士曰ク『私ハ舊派ノ近時ノ主張ニ對シ慷慨ラザルモノナキニ非ザル次第ニ候(共所謂哲學的研究態度ヲ全然無視セントスル者ニハ無之候哲學ノ本場タル當國ニ就テハ特ニ敬意ヲ以テ此ノ舊來ノ風潮ヲ觀察スルノ要アルノミナラズ「かんこニ歸レ」「ヘーげるニ歸レ」トイフ聲ハ此ノ頃又吾人ノ耳榮ヲ打ツコト一再ナラズ候(八九、九〇頁)カクテ士博トすたむら—自由法運動、かんころういつ等ニ言及シテ居ラルル。此一節ハ最近ノ中央公論デ拜見シタ博士ノ法律社會化論ト併セ讀ムトキハ趣味律々タルモノガアル。而シテ門外漢タル予輩ハ刑法學ニ於ケル否法律學一般ニ於ケル這箇ノ新潮流ニ對シテ深ク共鳴スルコトヲ禁ジ能ハヌノデアアル。而シテ博士ガすたむら—ヲ評シテ『新形式ヲ以テ現ハレタル自然法論』(九一)ナリト斷セラレタルハ克クモ道破セラレタル哉ト

感ゼザルヲ得ヌ。コハ單ニ自由法、正當法等ノミニ就テノコトデハナイ。すたむらゝノ新かんと主義哲學ノ全體ノ眞面目デハアルマイカトハ吾輩ノ久シキ以前ヨリ考ヘツツアツタ所デ博士ハ我々ニ代ツテ其銳キ眼ヲ以テ一言ニシテ全豹ヲ喝破セラレタノデアル。我輩ハ「正當法論」ハ半分計リ讀シテ分ラズ仕舞デ捨テタガ「經濟ト法律」ヤ「法學論」ハ再三熟讀シタガ十數年前一ニモ一ニニヤすたむらゝ信心タリシ吾輩（經濟學研究ノ發展ニ關スル傳說トニ於テ）ハ今ヤ彼ヲ以テ一ノBindestadtトシテハ十分ニ敬重スルガ最早新シキ哲學ヲ彼ニ求ムルコトラ斷念セネバナラスト信ジテ居ルモノデアル。すたむらゝノ新かんと主義ハ「新形式ヲ以テ現ハレタル」めたふめじつく」ト云フ可シト思フ。之ヲ西南獨逸派ノ新哲學ト對照スレバ其間大ナル徑庭アルコトト思フ。

第四「巴里より」ノ中デハ第六ノ法律學ニ於ケル方法論ト第七ノ社會連帶論トヲ最モ克ク諒解シ得ク。博士曰ク『らるのーミ教授ハ（略）其當時自然ノ權利トシテ何人モ爭ハナカツタモノデ今日疑問ノ種トナツテ居

ルモノアリ其當時少シモ問題ニナラナカツタ者デ今日重要ナ權利ト看做サレルモノアリトシ例ヘバ生命權 *Droit à la vie*……；等ヲ後者ノ例トシテ舉示セラレ居ルコト一候（一五八、九頁）以下博士ハ公法、私法ノ二ニ涉ツテ詳細ニ佛國ニ於ケル新傾向ヲ記述セラレ甚ダ克ク其大勢ヲ知ルコトヲ得タ。然シ博士ノ此著ヲ興味ヲ以テ讀ンダ吾輩ハ其ニヨリ大ナル熱心ヲ以テ博士ノ中央公論上ノ『法律ノ社會化』ヲ讀ンダガ其一節ニ『所謂社會政策一吾人ノ思惟スル所ニ於テ此ノ新シキ階級爭鬭ヲ解決ス可キ唯一ノ實行的方法タル社會政策ハ茲ニ於テ如何ナル基本礎石ノ上ニ構成サレネバナラストカノ問題ヲ生ズルノデアル。富裕階級ガ其ノ富ニ對スル所有權ヲ主張シ、貧民階級ガ其ノ人格ニ基ク生存權ヲ主張スル間ハ此ノ問題ハ到底解決ノ付ク者デハナイ。從テ社會政策ハ兩者ノ權利ノ單純ナル妥協互讓ヲ基礎トスルモノデハイケナイ全ク新シイ思想ノ上ニ成立セネバナラスト。此ノ新シイ思想ヲ一派ノ學者ハ社會協働論ト稱シテ居ル』（同誌世界大觀號六十頁）トアルノニ逢着シテ聊カ疑ヲ惹起サザルヲ得ナ

イ。らるの「ご教授ノ所謂生命權ト博士ノ茲ニ謂ハルル、生存權トハ同一物ノ謂カ又ハ別箇ノモノカ。らるの「ご先生ハ生命權ヲ以テ新時代ノ新要求ナリトシ博士ハ生存權ヲ以テ富者ノ所有權ト全ク同一種ノ古キ權利主張ト看做シテ居ラルル。博士ノ云ハルル如ク羅馬法傳來ノ私權主張ノ上ニ立ツテ社會政策ノ根據ヲ打立ツルノ不可能ナルハ予輩モ全ク同感デアル乍併生存權 Droit à l'existence ; Right to existence ; Recht auf Existenz ハ少クトモあんどん・めんがー先生主張ノ意味——此レ予ノ終始追從シツツアル所ナリ——ニ於テハ博士ガ所有權ト同一列ニ置カルルガ如キモノデハナイ。めんがーノ所謂社會權又ハ經濟權又タ、我穗積先生ノ主張セララル社會權デアル。佛國學風評論ニ於テ此ノ新シキ解釋ヲ認承セラレタル如クナル博士ハ中央公論ノ論文ニ於テハ全然之ヲ否定シテ居ラルルガ如クデアル。是レ予ノ十分ニ諒解シ能ハザル所デアル。

次ニ佛國ノ學風ト獨逸ノ學風トニ關スルがるそん教授ノ説ハ面白ク讀ンダ。併シ我々第三者

カラ見レバ教授ノ説ニハ多少「質惜シミ」ガ含まレ居ル様ダ『獨逸ノ學問ハ深遠ナリト云フコトガ出來ルトスレバ又同時ニ晦澁デアル吾人(佛人)ニテ以テ明白デアルトイヒ得ルトスレバ又同時ニ淺薄デアルト云ヒ得ルデノロウ』(一一〇、一一一頁) ヨリ最モ克ク道ヒ得タリト感ズル。

『學問ヲ精ニシテ實際カラ遠カルコト而シテ世ノ中ニ殆ンド理解サレナイ位ニ實際カラ遠カルトイフコトハ誰マチバナナヌ』(一二二頁) ハ勿論デアルガ其ヲ又タ口實トシテ實用實利ノミヲ學問ノ能事トシテ淺薄ナ研究ヲ散漫ナ理論ニ安ズルコトハ更ラニヨリ、多ク謹ナネバナラヌデハナイカ。刑法及一般法律學ニ於ケル佛國ノ學風ハ又我經濟學ニモ見ユル學風デ『佛蘭西ノ科學ヲ以テ探ルニ足ルモノ少シ』(一二二頁) トハ元ヨリ妄斷ナレドモ獨逸ニ比シテ佛蘭西ノ經濟學ノ甚シク劣レルコトハ誰人モ否認シ得ザル所デ單ニ淺薄ノミガ缺點デハナイ。『日本ノ科學ヲ形造セントスル者ニ探リテハ兩者ノ長所ト短所トヲ明カニ』スルコトハ緊要事タルハ勿論デアルガ其探ル可キ長所ノ獨逸ニ六七ニシテ佛國ニ三四ナルコトハ博士モ亦認メラレルデアロウト思フ。

第五ノ「倫敦ヨリ」ハ其全部我ニ十分諒解ノ出來ルモノデ從テ予ハ多少言ヒタイコトモアルガ些デモ知ツテ居ルコト丈ケニ以上ニ記シタ様ナ盲蛇ノ妄言ヲ敢テスル勇氣ヲ振ヒ起シ得ナイデ今ハ已メルコトニシタ。何レ他日機會ガアツタラ卑見ヲ記錄シテ博士ノ教ヲ請ヒタイト思フ。

要スルニ牧野博士ノ新著ハ穗積先生ノ「法窓夜話」河上博士ノ「祖國ヲ顧ミテ」ト共ニ近來ノ法律經濟ノ學書ノ中特別ノ性質ヲ有スルモノデ獨リ專門學者ノミナラズ汎ク一般讀書子ノ一讀シテ多大ノ興味ト利益ト而シテ刺戟トヲ享ケ得可キ書物デアアル。此ノ如キ種類ノ書物ヲ漸ク産ミ出スニ至ツタコトハ我日本ノ學問ノ進歩シテ條文解釋教科書編作以外ニ綽綽タル餘裕ノ境界ヲ現出シタコトトシテ吾人ノ均シク會心ヲ禁ジ得ザル可キ事デアアル。嘗テハ天才ニ見捨テラレタル學問ニアラザルカトマデノ懷疑ヲ否定シ得ナカツタ我邦ノ法政學モ今ヤ此ノ懷疑ヲ全然一掃シ得ルコトトナツタ。而シテ我々ハ詞藻ノ貧

弱趣味ノ枯渴ハ必ズシモ學者ノ必要資格ニ非ザルコトヲ悟リシ得タ。是レ我輩フシテ晝寢ノ若干時ヲ割イテ茲ニ此ノ惡文ヲ物シテセメテ感謝ノ意ダケナリトモ表明シテ置キタイト志ッシメタ理由デアアル。(五、七、二十一)